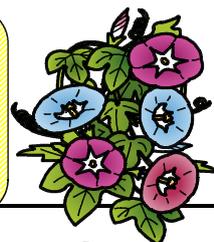




ちくさ咲く みち

あさがお



可愛い子には、旅をさせよ

校長 花生 典幸

まず、一つの詩を紹介します。

雨にもあてず 風にもあてず
 雪にも 夏の暑さにもあてず
 ぶよぶよの身体に たくさん着込み
 意欲もなく 体力もなく いつもぶつぶつ不満をいっている
 朝から あくびをし 集会があれば 貧血を起こし
 あらゆることを 自分のために優先に考え 自分をかえりみず
 作業はぐずぐず 注意散漫 すぐにあきる そしてすぐ忘れ
 りっぱな家の 自分の部屋に閉じこもって
 東に病人あれば 医者が悪いといい
 西に疲れた母あれば 養老院に行けといい
 南に死にそうな人あれば 寿命だといい
 北にけんかや訴訟があれば ながめてかかわらず
 日照りのときは 冷房をつけ
 みんなに 勉強勉強といわれ 叱られもせず こわいものも知らず
 こんな現代っ子に だれがした



(原文 漢字・カタカナ)

これは、十数年前に発表された宮沢賢治「雨ニモマケズ」のパロディーです。現代の子どもたちのありようを風刺するとともに、わたしたち大人への厳しい批判も含んでいるように感じられます。

「可愛い子には旅をさせよ」とは、**子どものために本当に思うなら、甘やかすばかりではなく、試練も同時に与えて、たくましい心や、物事を正しく見聞きできる力を育ててやらなければならない**という意味です。子どもの時代に試練を与える場は、学校だと思えます。勉強や遊び、友だちや先生とのかかわり、給食やさまざまな行事、すべてが楽しいことばかりではなく、子どもにとってはつらいこともあるでしょう。

つらいことだから、すぐにそれを避けたり、大人が取り除いてやるのではなく、つらいことを乗り越えられる力をつけられるように支え励まし、かかわってあげることこそ、われわれ大人がすべき本当に大事なことだと思うのです。

旅(=試練)とは、子どもを確実に成長させる、いわば好機にもなります。

明日から始まる長い夏休み。ご家庭でも、為すべきこと、果たすべき責任はしっかりと教え、時には励まし、自分でできることが増えたら大いにほめ、時には厳しく叱り、また時にはいっしょに涙を流しながら、寄り添ってくださればと思います。

夏休みが終わり、ひとまわりたくましく成長した子どもたちの笑顔にたくさん出会えることを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

